

この第60号で、GOAT BULLETINは、廃刊することになりました。これまで御愛読いただきありがとうございました！

Dahlan先生と久保さんの歓迎会

4月8日に、マレーシアのプトラ大学からお越しになっているDahlan先生(3月25日～5月末まで滞在予定)と、今年度から事務補佐員として畜産資源(主に熊谷先生の受託研究費)の面倒を見てくださる久保さんの歓迎会を行いました。夕方6時に始まった宴は、広岡先生の乾杯で即効スタート…(^_^;)お二人からのお言葉は、後ほど記事で寄せていただきました。

昨年の卒論修論打ち上げ、送別会に引き続き、研究室での飲み会となりました。今回も、広岡先生がお気に入りのお魚屋さんへ開店と同時に、新鮮なお魚を買ってきて下さいました。メインはお刺身で食べられる鯖、生鰹(湯引きにしました)、鰹のたたきを買ってきて下さいました。ご馳走様です！このほか、久しぶりに北海道からポタンえびの刺身とキンキ、ホッケ、カレーなどの干物も届き、豪華な宴となりましたね(お料理の写真が無いのが、ちょっと残念です)。お魚が大好きなDahlan先生にも

喜んでいただけたのではないのでしょうか？グルメ王がいた頃の飲み会のようなでしたね～(笑)。あれだけの豪華メニューに加え、お酒も高級ビールに焼酎・日本酒・ワインまで揃って、学生の会費1000円！先生方のご貢献とやりくり上手なイベント係りさんに感謝ですね♪

約22年前にDahlan先生が広岡先生と畜産資源の前身である熱帯農学研究室で過ごされた日々も紹介され、学生との距離も一気に縮まった感じがします(?)。久保さんは終始控えめにされていらっしゃいましたが、学生の雰囲気もわかっていただけたのではないかなと思います。これからたくさんご面倒をおかけすることになると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします～!!



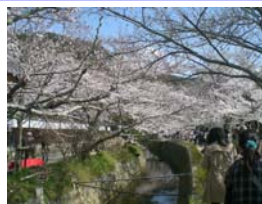
目次:

広岡先生の随筆 ◎政治談議	2
枝垂桜の下で	3
☆ご出産おめでとうござ います☆	3
新メンバー紹介	3～ 5
広岡先生の随筆 ◎福島原発事故について	4
【続】巣立ったメンバーか らのメッセージ	5
Dahlan先生からのメッ セージ	6
お知らせ	7

今年の桜は、寒緋桜～染井吉野～枝垂桜～八重桜とどの桜もとても長く咲いていますね。未だ3月11日に起こった東日本大震災の爪あととは深く、報道に取り上げられない隔離地域の現状、原子力発電所の事故に起因する被害、被災している方々の処遇などなど問題が山積していますが、そんな日本を応援してくれているかのようです。ただ、問題が世界規模に大きくなり、長期化されることも予想されています。将来のために何をすべきか、我々に課せられた大きな課題です。

お花見

4月7日、研究室のみんなで、花見に行きました。恒例ルートとなった、農学部門から白川疎水通りを歩いて哲学の道まで、約2kmの道のりを、往復1.5時間ほどかけてゆっくり見してきました。今年は、新入生がいなくて残念でしたが、花見酒がいいのだ、やっぱり花より男子



(団子?だ)の、わいわいおしゃべりしながら、研究の合間のひと時を楽しんできました。桜は7部咲きで、ちょうど見ごろでした。お天気もよくて、ぽかぽか陽気、春を全身で感じる事ができました。毎年日本に生まれて良かったと思う季節ですね。

好評連載 広岡先生の随筆

④政治談義



酒屋でわれわれの年代の人間が集まるといつも論議になるのが、政治の話である。もっとも、われわれの世代は、酒場の話といえば、若い時から女性の話と政治の話は定番であった。しかし、今の政治・経済を見ていると頭を抱えることの連続である。そこで今回は、1990年代始めから今に至るまでの「失われた20年」について政治談議を行いたい。なお、今回は酒場の政治談義の延長線上の話なので、あくまでも私の私見であることを最初に断っておく。



バブルの弾けてすぐの20年前、多くの人々は、日本はすぐに立ち直るであろうと信じていた。実際、バブル期には、日本は世界一をめざして経済的に発展を続け、アメリカにも追いつきそうな勢いであった。したがって、みんなプライドと自信に満ち溢れていた。しかし、当時から私は、日本の復権には否定的で、いかにソフトランディングをして、ヨーロッパの国なみになるかを模索すべきと主張していた。しかし、私の意見は少数派で、ヨーロッパなんてすでに終わった国々ではないかと大多数が言っていたのを覚えている。

しかし残念ながら、私の予測通りに、20年後の今の日本は多くのヨーロッパの国々よりも貧しい国になってしまった。心の豊さは当然の事、経済的にも貧しくなってしまった。しかも悪いことに、これからの展望も開けない状況にある。なぜこのようなことになってしまったのか。

この事を考える場合、この20年間に何が起こったかを考える必要がある。その第1は、農産物を含む安価な輸入品の大量流入である。その結果、物質的に物余りが生じ、物価が下がることとなった。同時に、相対的に高価になった国産品が駆逐されてしまったことも、国の産業の衰退をもたらした。第2は女性の社会進出である。機械やコンピュータの急速な進歩に伴って、人間の行うべき仕事量が減少し、その上、女性が社会進出したので、マンパワーが過剰になり、その結果、相対的に人の労働価値が低下し、賃金も下がった。第3は、世界でも例を見ない超低金利政策である。私の学生時代などは、銀行の金利が5%などはざらであったが、今ではゼロ点何パーセントがせいぜいである。このような状況では、勤勉で質素な日本人のメンタリティーとしては、経済理論とは異なり、いくらお金があっても将来の事を考えれば使う気になれないのは当然である。また、こしばらばは買いたくなる魅力的な商品も少なかったように思われる。

これらの3要因によって、物価は下がり、給料は下がり、さらに、格差が広がって、日本人はトータルでは貧しくなった。この事は海外に行けば分かりやすい。20年前ならばほとんどの国でリッチな気分になれたが、今では中国でも、物価の差を強く実感できないようになった。明らかに日本人は経済的に貧しくなっている。

それ以外でも、この20年は政治家と公務員がいつもバッシングを受けていた。公務員についていえば、確かに、かつては首にならないことを担保に、まともな仕事をしない公務員が多かった。大学でもまともに大学に来ずに、家業に精を出す教員もいた。しかし、私の知る限り、世のため、人のために懸命に仕事をしている人も多かった。さらにいえば、日本の官僚は日本のトップクラスの人を集めたエリート集団で、能力的には世界最高水準であった。歴史的に見ても、政治家がダメでも、官僚の優秀さによって何とか日本は世界とわたりあってきた。しかし、この20年間、官僚をはじめとする公務員はバッシングを浴び続け、自信を失い、優秀な人が徐々に少なくなっているように感じられる。実際に日本を動かして行くには、かなりの頭の良さが必要で、無能な官僚では日本は無茶苦茶になってしまうに違いない。公務員の士気が下がったこともまた、この失われた20年間の原因として、無視できないように思われる。官僚の給料が高いと言う意見もあるが、天下りで何度も法外な退職金をもらうことは常識外であるが、小学生の時から一生懸命に勉強に励み、知識をつけてきた努力を考えれば、それに応じた給料を受けることはさほどおかしいことではないように思われる。批判を受けることを覚悟して言えば、私の経験上、学歴と仕事の能力は、総じて比例しているように思われる。本音ではそうであってほしくないと思うが、事実である。受験は、人の仕事能力を測る最適な手段である。

また、この20年間に世の中を動かしてきたのは、団塊の世代の人々である。団塊の世代全体を敵に回したくないが、この世代は、学生紛争において挫折を味わったせいも、なにかしら変化を求め、自分がトップに立った時に、過去の物を変えなければならないという使命感が極端に強い。そのため、結果的に過去の多くの有用なシステムを破壊してしまったように思われる。本当に正しい変化は自発的に起こるもので、最初から過去のものを否定して、変化させて、成功するケースは極めて少ないように思われる。

それではどうすればよいのか。暴言と言われるかもしれないが、まず、国が経済的にゆとりをもつことである。国が萎縮しては、絶対に社会全体が萎縮してしまう。まず、国が経済的にゆとりをもつと、「金が金を呼ぶ」という格言にあるように、自然と金が集まってきて、政策の選択肢が増えることになり、社会は良い方向に動くことも期待できる。場合によっては、ヨーロッパ並みに消費税20%も良いのではないかと思う。その際、使い道をガラス張りしておくことは言うまでもない。また同時に、バブル前に採用されてきた良いシステム、過去において成功したものを温故知新の精神で再検討し、場合によっては政策に大いに取り入れる必要がある。

まったくの素人の意見であったが、私はいま、日本人がまじめさを取り戻し、真剣にがんばることが、今の閉塞した社会を脱する唯一の解決策であると考えている。

広岡博之

枝垂桜の下で～応用生物科学専攻歓迎会

4月11日、毎年恒例の応用生物科学専攻新入生歓迎会が旧演習林の枝垂桜の下で開催されました。今年度の専攻長、松井先生のお言葉と東日本大震災による犠



牲者の方々への黙禱に始まり、藤崎先生の乾杯の音頭で開宴となりました。毎年ちょうど枝垂桜が満開の時期に行われていますが、今年は例年よりも寒く、ビールジョッキを持つみんなの手が震えていましたね～まさに花冷えでした。二樽用意していただいた生ビールよりも、焼酎やウイスキー(サントリーローヤルプレミアム15年でした！)のお湯割の方が人気だったようです。おつまみもローストビーフやスモークサーモンが入って、美味しかったですね。畜産資源が陣取ったテーブルでは、サンドイッチが一番早く

消費されていました。が…(^_^;)ま、食べ盛りということ



恒例の研究室紹介では、教授

がいくら呼び出しても学生が出てこない研究室や、お立ち台で演説を始める学生(途中でくじけていましたが…)もいて、個性的な京都大学の学生を象徴しているようでした(苦笑)。畜産資源は、じゃんけんで紹介権を勝ち取った前野君が、メンバー紹介をしてくれました。

寒さからか、研究室紹介が終わる頃には、人影もまばらになり、自然解散となりました。まだちょっと早いし、ということで研究室で飲み始め…その後は、ん？覚えてない？

☆ご出産おめでとございます☆

畜産資源OBから朗報が届きました☆

2009年に学位を取得して、故郷のホンジュラスに戻られ、先生をしておられるレニンさんと、動物栄養で学位取得されたリクサさんご夫妻の第2子、キメナピクトリアちゃん(生後2ヶ月)です。お兄ちゃん



んのアンドレ君も大きくなりましたね♪

そして、2007年3月に修士修了された入江(旧姓上原)幸さん(いつも亀岡の美味しいものを持ってきてくださってありがとうございます)の第1子、美

咲(みさき)ちゃん、3月2日生まれです。幸さんは、元野球部で畜産のソフトボールの



エースでもあった健康派☆出産に際しては、産婦人科のお医者さんから定期健診の間隔

を伸ばされてしまうほどの健康優良妊婦だったそうです。出産時、『全力で力を抜くのが大変だった～』と、おっしゃっていました。まだまだいけそうですね(笑)旦那様も元野球部だそうですよ。目指せ！家庭内野球部♪

平成23年度

新メンバー紹介 ～第1弾～

今年度の畜産資源新メンバーを御紹介します。第1弾は、新4回生の岸君、E307の住人です。

- ①岸 瑠介(きしろうすけ)
- ②中・高で、ネチオって呼ばれてました。大学の寮でも中の良い人はそう呼びます。
- ③1989.12.3
- ④O
- ⑤北海道
- ⑥函館ラ・サール
- ⑦マインスイーパー(上級81秒、中級26秒、初級6秒)
- ⑧ゲーム
- ⑨鳥
- ⑩食べ物の好き嫌いが無い
- ⑪生活リズムが不安定
- ⑫よろしくお祈りします



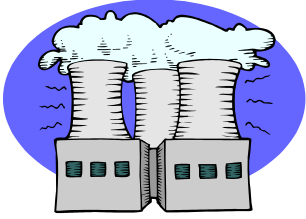
- ①名前②なんて呼ばれたい？
- ③誕生日④血液型⑤出身地
- ⑥出身高校⑦特技⑧好きなものの⑨嫌いなもの⑩長所⑪短所



ある春の一日、付属牧場へ行ってきました☆

好評連載 広岡先生の随筆

④7 福島原発事故について（最終回）



10年近く前に、日本がBSE(狂牛病)パニックに陥った時に、人からその安全性を聞かれれば、いつも、「大丈夫です。あなたの飛行機が落ちる確率よりも、低いです」と答えることにしていた。すると、みんな安心してくれたのを覚えている。当時、日本ではじめて1頭のホルスタイン種のBSE患畜が見つかり、牛肉がほとんど売れなくなり、生産業者は大きな打撃を被った。しかし、冷静に考えれば、日本の約400万頭の牛の内の1頭が発見されたのみで、たとえ、その他に数頭の患牛が存在していたとしても、まず人間に感染することはないと容易



に判断できた。確かに、ヨーロッパではBSEが大問題となっていたが、それはイギリスで数十万頭のオーダーで患牛が発見されたため、しかも、その牛肉をハンバーグなどで大量に食した消費者がクロイツフェルト・ヤコブ病にかかったためであった。実は、BSEの存在は1990年代の当初から分かっていたが、1995年に人間への感染の可能性が指摘され、ヨーロッパ中が大パニックとなった。つまり、5年間、消費者はまったく知らずに食べ続けていたのである。このような状況と、日本の状況はまったく異なるのは明らかであった。しかし、100%安全ですかと問われれば、100%絶対に安全などはあり得ないことになる。人は、常に確率の上で、リスクとベネフィットを秤にかけて行動しているものである。

2011年3月11日、日本は未曾有の大災害に遭遇することとなった。とりわけ、福島原発の放射能洩れは深刻で、世代を超えて、日本は重い十字架を背負うこととなった。この問題が深刻なのは、放射能による食料への汚染である。政府は、ただちに問題になることがないと繰り返すばかりであるが、そう言われても、牛乳から安全基準を超える放射能が検出されており、それでなぜ母乳が安全であると言えるのか分からない。確かに、放牧牛は外で牧草を食しているとしても、経路は空気、水、牧草しか考えられず、人が同じ空気を吸い、水を飲み、野菜を食していることを考えれば、程度の差こそあれ、母乳が安全などと本当に言えるのであろうか。しかも、北海道であればまだしも、本州の酪農は放牧の割合が低く、大半は舎飼いのはずで、政府は最悪の場合を考え、本当に放牧牛と舎飼いの両方からサンプリングをしたのであろうか。BSEに関しては、すでにヨーロッパでは多くの科学的なデータの蓄積があり、さらに確率的に日本で人が罹患する確率はゼロに近いと断言できた。しかし、恐怖心を煽る気はないが、東日本の住むほとんどの人が自然界に存在しない放射性物質に暴露されたことは明らかで、そのリスクは少なくともBSEの時と比較にならないことは明白である。

私が龍谷大学に着任した時の最初の学生であった遊道君は、原子力発電所について疑問を持ち、フィールド調査の一環で、福井県の高浜原子力発電所を見学し、また放射線計測協会から実際に測定機器を借りて、原発周辺と自分の生活空間を測定した(龍谷大学経済学論集 学生論集 第33号92-118ページ、1994年)。この研究において、彼は原子力発電所の管理システムや構造を見学し、職員からいろいろな話を聞いているが、職員はチェルノブイリのような事故は決して起こることはないと何度も彼に説明したそうである。しかし、今回、大事故は発生した。そもそも、絶対に事故は起こり得ないと想定していること自体が間違いである。その奢りが、まさかの時のバックアップ体制を杜撰なものとし、結局、日本の歴史上最大の人災を生み出すこととなった。遊道君の研究を再度読むと、まだまだ隠されていることが多いように思われる。

テレビでは、原発と放射能汚染の専門家と言われる教授(時には准教授)が、さかんに安全性を強調しているが、時間の経過とともにその楽観的な予想がごとごとく覆されている。一方、雑誌では、肩書きが助教である研究者がインタビューに答えているが、その見解のほうはずっと正しく迫力があるように思える。その様子を見ていると、これまでのわが国の原子力行政と学問の世界の間、そして、真実を追究し、それによって迫害され、ひどい仕打ちを受けてきた優秀な研究者たちの姿が透けて見える。結果的に、チェルノブイリのように、長期にわたって人の立ち入ることのできぬ広いエリアができる可能性が高くなっている。

夏草やつわものどもが夢の跡 (松尾芭蕉)

広岡博之

平成23年度

新メンバー紹介 ～第2弾～

今年度の畜産資源新メンバー紹介の第2弾は、E303で皆さんをお待ちしている三輪君(新4回生)です。

①三輪雅史(みわまさふみ) ②みわ ③H1.5.9 ④A ⑤愛知県 ⑥愛知県立一宮高校 ⑦フェンシング。そもそもやれる人が少ないだけです…。⑧動物園水族館 ⑨ジェットコースター ⑩好奇心 ⑪人見知り ⑫球技がすっごくアレなので、ソフトボールが公開処刑になる予感がします。すごく。



①名前②なんて呼ばれたい?③誕生日④血液型⑤出身地⑥出身高校⑦特技⑧好きなもの⑨嫌いなもの⑩長所⑪短所⑫ひとこと

【続】巣立ったメンバーからのメッセージ

畜産資源の後輩諸氏へ

平成22年度修了生 加藤陽平

かなり研究センターの二年間でしたが、とても幸せな時間が過ごせたと思っています。自分の成長が実感できた二年間でもありました。僕の研究室生活での一番の思い出は、投稿論文を書いたことです。それについて思ったことを少し書きます。

ふだん何気なく検索して何気なく読んでいた論文にはドラマが詰まっています。自分の投稿論文が印刷された今、想像以上の充実感と達成感に満たされています。決して自慢を書きたいわけではありません。ただ単に、後輩の皆さんにもこの感覚を味わっていただきたいのです。実際、単位をとって、卒業論文なり修士論文なりを書けば、卒業、修了はできますよね。でもそのための研究はなんとなく空しい気がします。せっかく若い時期の数人を研究室生活に費やす選択をしたならば、その中で最大限の喜びを見つけなければ損な気がします。投稿論文に仕上げることは非常に労力がかかることで、先生に怒られる機会も増えるし、遊ぶ時間や寝る時間も減り、精神的に参ってしまうこともあるでしょう。修正して受理されるまでのプロセスも大変でしょう。でも、受理され、印刷された後の喜びは、部活で入賞したときの喜びや、大学入試に合格したときの喜びとはまったく別物、別世界でした。ちょっとストイックに頑張ってみて、みなさんもこの、えも言われぬ喜びをぜひ味わってください。さらにはこれをクリアすると、自分に少し自信がつき、新しい世界が垣間見える気がします。そして、みなさんでこの喜びを共有しあうことで、みなさんの研究室内のQOLが向上し、もっと活気あるちくしになってくれることを祈っています。それではさようなら。



お世話になりました

私が畜産資源に来たのは5年前でした。当時、人見知りの私は、知らない人ばかりの研究室に行くのが億劫で引きこもり

になろうかどうしようか、真剣に悩んだりしたものです。そんな悩みを乗り越えてちくして過ごした日々は、想像以上に楽しいことや辛いこと、パニック(笑)などに満ちていてとても思い出深いものでした。いろいろな人に出会って刺激を受けて自分も少しは成長できたのではないかと感じています。引きこもりにならなくてよかった・・・^^;

先輩方にも後輩たちにも迷惑をかけっぱなしで、お世話になった分の半分も研究室にお返しできず心苦しい限りですが、その分これから出会う人たちに還元していけたらいいなと思っています。

私は他分野への進学のために研究室を去りますが、こんな決断が許される環境にあること、後押ししてくれる家族や友人に恵まれていることに感謝して頑張りたいと思います。

竹内佳代



広岡先生はじめ畜産の皆様、こんにちは。お元気でしょうか。私の方は、元氣そのものといったところです。毎日楽しく生活しています。仕事にはまだまだ慣れず戸惑うこともあります。職場の方々にも恵まれ、おかげさまで何とかやっています。

大学院時代、皆様には本当に世話になりました。研究室で皆様とともに研究に取り組んだ日々は、これからも私の糧となって人生を支えてくれることと思います。しんどいことから逃げないことと同じくらい、上手に乗りこなすことの大切さを知りました。研究は時に壁にぶつかることもあるかと思いますが、こんな私がえらそうなことは言えませんが、ぜひ頑張らずに頑張ってください(笑)。あと、今の業務は研究からは離れていますが、エクセルに多少なりとも慣れておいてよかったと感じています。

もし平日に京都に行く機会があれば、ぜひそちらに伺いたいと思います。新四回生の方々にも会えるチャンスがあればいいなあ。そのときは温かく迎えてください。ちょっとだけコメントを寄せるつもりが長くなってしまいました。それではまた会う日までお元氣で。

中川智加

平成23年度

新メンバー紹介～第3弾～

今年度から畜産の事務を一部担当して下さる久保さんです。みゆきさんと同じお部屋(E308)にいらっしやいます。

- ①久保雅美(くぼまさみ)
- ②久保さんでいいです(というか、特にないです。)
- ③12月28日
- ④0
- ⑤兵庫県神戸市、育ちは京都です
- ⑦地図づくり(自分の中の名所地図)、スピードクッキング、予

知能力

- ⑧チーズ。
- ⑨ムカデ苦手です。
- ⑩くよくよしない、前向き。
- ⑪強引な上に、ケンカしたりします。
- ⑫週1回ですが、よろしくお願いします。



- ①名前②なんて呼ばれたい?③誕生日④血液型⑤出身地⑥出身高校⑦特技⑧好きなもの⑨嫌いなもの⑩長所⑪短所⑫ひとこと

Dahlan先生からのメッセージ

Professor DAHLAN BIN ISMAIL, PhD
 E-mail: dahlan@putra.upm.edu.my
 Specialization: Animal Production Systems
 Date of Birth: 1 July 1955

Dahlan Ismail born in 1955, complete his doctoral course at the Graduate School of Agriculture and obtained a PhD of Kyoto University in 1989. He received his Doctor of Veterinary Medicine and Master of Science in the field of animal breeding and meat science from Universiti Putra Malaysia (UPM) in 1979 and 1985 respectively. He was promoted to be a professor of animal production systems in the Faculty of Agriculture, UPM in 1998. He was responsible for the re-opening and setting up of the UPM Bintulu Campus in Sarawak, East Malaysia. He served as senior team members and became the first Dean of the Faculty of Agricultural Sciences and Food from 2001 to 2004. From January 2005 to June 2007 he went back to Faculty of Agriculture at UPM main campus. In July 2007 Dahlan was appointed as Deputy Vice-Chancellor (Research and Innovation) of Universiti Utara Malaysia (UUM) by Ministry of Higher Education Malaysia as a secondment for 3 years. His responsibility was to secure university's research and development budgets and to encourage and motivate academicians to strengthen their research and innovation capabilities and actively involve in consultancies since UUM is a Malaysian Management University. He finished his 3 years term and went back to UPM in August 2010 as a senior professor of Faculty of Agriculture.



His research areas were mainly focus on the sustainability of animal-agricultural production systems. He has conducted research on Sustainable Integrated Livestock-Crops Production Systems – mostly works on integrating livestock (ruminants-cattle, sheep, goat, buffalo and deer) in plantation crops like oil palm, rubber and agroforestry systems for multiple production purposes. He has developed 'Decision Support System software called LICRO' that can be used for planning of Livestock-crops integrated production systems. He also conducted research on animal products and by-products quality evaluation in order to develop cattle grading systems for cattle-oil palm plantations integrated production systems. Further to that he had conducted research on animal feedstuff evaluation and processing. He had evaluated oil palm frond (OPF) as fibre feed resources for ruminant and developed feedmill to produce OPF pelleted feed. Beside that he had conducted research on deer, mousedeer and wildlife breeding, feeding and management in captivity. He had determined and evaluated deer ecologically carrying capacity and production in agroforestry systems and bio-park.

The purpose of his 9 weeks visit to Graduate School of Agriculture, Kyoto University (KU) are to explore new knowledge on animal production systems – especially on advancement of modeling and simulation techniques in animal production systems; to have an academic and research discussions for re-freshment and new technological exposure; to visit and study Japanese Farmers Co-op Systems and its sustainability; to visit his dearest friend, Professor Hiroyuki Hirooka, Division of Applied Biosciences, Laboratory of Animal Husbandary Resources, Graduate School of Agriculture, KU and lastly, to study the organizational structure of Graduate School of Agriculture and Kyoto University as an example of one of the best University in Asia.

After more than 22 years since he left Kyodai and Kyoto City, he found that not much changes have been occurred, except the new KU Museum, the New Kyoto Eki, newly renovated Laboratory of Animal Husbandary Resources and the Graduate School of Agriculture. The changes that he noticed were almost all people (staff and students) in the laboratory are new faces, young and energetic, a lot of new facilities and equipments, but the culture and style of research and study are sustained.

He felt that to be back at Kyoto is really nostalgic experience. Food he like most in Kyoto are udong, sakana, all seafood, sushi and tempura. His hobby is appreciating nature, especially Kyoto Japanese Cultural Heritage and beautiful parks and rivers, so he felt very lucky this time because managed to see sakura blooming 'hanami' and enjoying sight seeing in Kyoto.

Message to the lab members;

If you want to be success in your life.... you should plan your life strategically and timely. You should do SWOT analysis on yourself... identify your strengths (S, +ve). weaknesses (W, -ve), opportunities (O, +ve) and threats (T, -ve). Capitalize on your strengths and opportunities, positive aspects (S & O) of yourself and improve your weaknesses and avoid your threats. And finally do not run away from any problems, take the challenge... turn the problems into opportunities. Remember, with knowledge we serve and contribute toward the sustainability of our mother earth.

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは、

5月10日(火)	Dr.Dahlan "Sustainable Agriculture"	14:45-	E103
5月12日(木)	安在・前野(研究者会議)	14:45-	E103
5月17日(火)	石田・中川(文献紹介)	10:40-	E103
5月24日(火)	酒井・Cici(文献紹介)	14:45-	E103
5月26日(木)	西田・小栗(研究者会議)	10:30-	E103
5月31日(火)	木村・前野(文献紹介)	10:40-	E103

の予定です。変更がある場合には、お知らせしますので御注意下さい。ゼミ係り

学生実験

平成23年度第1回学生実験(5月18・19日)の人員配置は以下の通りです。

5月18日(水)	酒井、石田、前野、安在、三輪(木村)	
5月19日(木)	スリタヤニ、中川、小栗、西田、岸(木村)	TA係

今月のイベント

今年度の4回生の歓迎会を5月10日(火)に行います。場所・時間等の詳細は、追ってご連絡します。イベント係り

研究室の動向

広岡先生が4月28日から雲南へ出張中です。熊谷先生は5月6-7日で広島出張です。5月19日(木)13:45よりE103にて畜産資源OBで現畜産草地研究所研究員の西尾先輩の学位申請講演会が行われます。はくび会の畑とソフトボールが動き始めました～

2011年5月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
1 中川	2	3 憲法記念日 三輪	4 みどりの日 西田	5 こどもの日 岸	6	7 小栗
8 安在	9	10	11	12	13	14 Cici
15 石田	16	17	18 酒井・前野	19	20	21
22	23	24	25 中川・三輪	26	27	28
29	30	31				

編集後記 平成18年5月号から始めたGoat Bulletin、振り返ってみればあっという間の5年間でした。記事をお寄せくださった皆様、毎月の発行を楽しみにしてくださった皆様、どうもありがとうございました。研究室内から批判が出て、記事の内容を検討することも多々ありましたが、畜産OBや思いがけない外部読者の方々から「読んでますよ」と声をかけられるのはとても嬉しかったです。これまでの発行分は、今後も畜産資源学研究室のHPの隅に置かれるそうですので、時折開いて懐かしんでいただけたら幸いです。では、皆様さようなら～(^) ようこ